

JTB グループ労働組合連合会
第 2 回震災復興支援ボランティア:陸前高田市 参加報告
2011 年 10 月 1 日(土)

中国四国商品企画販売部

横田典之

10 月 1 日(土)・2(日)の両日、JTB グループ労働組合連合会は、岩手県陸前高田市震災復興支援ボランティアを実施しました。そのうち 1 日の活動に参加しましたので、活動内容を報告します。

■ 9 月 30 日、一ノ関市

広島から 7/25 に再開した IBEX エアラインズ 直行便の飛行機で一路 仙台空港へ。飛行機は金曜日ということもあったが、搭乗者数は全体の 7 割程度。70 人乗りのジェット機のため、ピッチは狭いが、革張りですわりごこちは悪くなかった。その後、シャトルバス、新幹線を乗り継いで、22 時 44 分によやく一ノ関駅に到着。仙台空港から仙台駅間のシャトルバスは、JR が 10 月 1 日から全線運行再開の直前ということもあり、ほぼ満席。新幹線は仙台で降りる人が多く、盛岡までは各駅停車ということもあり、自由席でも余裕をもって座ることが出来た。宿泊ホテルは「蔵ホテル一ノ関」へチェックイン。翌日が早いため、早めに就寝。

■ 10 月 1 日 一ノ関→陸前高田市

朝 8 時にホテル前に集合。朝食会場は平泉への観光客も一部いたが、ボランティアの方が多くであった。バスは住宅地に向かうこともあり、中型を 2 台用意。約 1 時間半弱で陸前高田市のボランティアセンターへ。センターはかなりバスがごった返していた為、近くの道の駅「川の駅よこた」(?)でトイレ休憩。この建物の中では、産直コーナーの他、震災支援の T シャツなどの色んなグッズ、震災前の町並みと震災後の町並みの写真が掲示されていた。センターに到着後、具体的な活動内容、諸注意等が市の職員の方から述べられ、その後班に別れ、スコップやバール等お借りして、車で 20 分程度の陸前高田市内中心部へ向かった。具体的な活動としては、50 メートル四方の敷地内にあるガレキの撤去、ならびに側溝の掃除であったが、ガレキも細かいコンクリート片や瓦が多く、鉄くずとそれ以外に分けて作業を行った。途中、元 JTB グループ労働組合連合会の職員の方が、近くに住んでいるため、お礼として草餅やご当地の豆腐や根菜類がたっぷりのお汁等振舞っていただいた。作業時間は 4 時間程度であったが、ケガもなく、無事終了。すぐそばでは NHK-BS の番組で瀬戸内寂聴さんと地元の若者との青空説法が収録されていました。89 歳にしては非常に元気そうにお話されていました。詳細は以下の写真にて・・・実際に目にするのと胸がすごく痛くなりました。半年たっても殆ど手が付けられていないところがあり想像以上のひどさに絶句です。



陸前高田市ボランティアセンター



陸前高田市を流れる気仙川 堤防が決壊



今回向かう先の景色。ガレキの山以外何ものなし。
瓦礫の山は高さ2階建てくらいあります。
これを処理するところが見つからないとのこと。



作業地域の周りでちゃんと残った建物は、この
一軒のみ。あとは瓦礫の山。。。



作業地域は江戸時代から残る古い蔵が残る
通りだったとのことですが、何も残っていません。



大先輩からいただいた豆腐と根菜類たっぷりのお汁
これ以外にも草もちとお茶も頂きました。



一区画でこれだけの瓦礫が集まりました。
前方の建物は造り醤油屋だったのですが、
全て流れてしまい、昔ながらの造り醤油は出来
なくなったとのこと。
建物も外壁のみ残っています。



河口付近。左側に見えるのが一本松
あの松は海岸線沿いに防風林として2キロに
わたり7万本あったそうですが、一本のみ残った
そうです。この松が建物を根こそぎ倒していった
とのこと。



右側に一本松。海岸線沿いは松林の残骸で高さはゆうに3階建て分ありました。



陸前高田市役所。柱には「検索終了」紙が。入り口には卒塔婆と線香等ありましたが、中は手付かずにまのガレキや遺品が残ってました。



陸前高田市役所外観。屋上まで津波が押し寄せたそうです。



マイヤというショッピングセンターです。3階以下は全て流されています。



市役所の周りは住宅地でしたが、全てなくなっています。震災以来手付かずにまの状態で。ガレキの他、鉄柱や釘などケガをする恐れがあるため、ボランティアの人はここまで手伝いに来れないそうです。



市役所前の市民会館です。ここでは7名のみ生存。ステージがあったのですが、屋根ごと津波によりはがされ、津波で小部屋に入れられ天井近くまで水が来たが、それが生死の別れだったとのこと。多くの住民の方がここに避難しましたが、偶然小部屋に入った人のみ生き残った。



市民会館前です。車は恐ろしい勢いでつぶされています。



市民会館の入り口です。建物内は半年たったいまでも手が付けられていないまま残っています。



これが大型バスには見えませんが、全てつぶされています。



地震のあと、山のほうへ逃げるために並んでいた車ですが、数百台という車が全壊です。



映画館のようですが、天井がはがれています。遺留品も散乱したままです。



市民体育館です。ここにも多くの方が逃げ込んでいたとのこと。



市民体育館の入り口ですが、遺留品がそのまま散乱しています。左にあるのは千羽鶴です。



15:30で時計が止まっています。恐らく津波が襲った時間だと思います。



体育館の中は、津波が引いたときに一緒に運ばれてきた車が2台ひっくり返って残っています。左の穴は元ステージがあったところです。引き波で完全に抜けています。市民体育館では数名生存されたそうですが、津波が来たとき天井のハリにつかまっていた人が助かっていたそうです。何人かはつかまりきれずそのまま流されたとのこと。。



仙台空港です。ほぼ通常通りに戻っていました。10/1に全線運行再開した仙台空港アクセス線です。
※あまりにも手が付けられないところが多く、震災後、時間が止まったかのような様子でした。当日依頼をされた地元の方は、メディアでは泣いている人を探してテレビで流しているが、あれは数少ない人達。心に余裕があれば泣けるが、心に拠り所がなく、本当にどうしたらよいか分からないときは泣けない。呆然とするだけだといってました。募金活動も一つの支援活動ですが、誰にいくら本当にわたっているか分からない。今回の場所にもありましたが、味噌蔵や日本酒の製造元は麹やタネ、工具類など一切流され、昔ながらの製造が出来ない方達が数多くおり、復活に頑張っている人がいる。その人たちに投資をすることが一番の支援活動ではという意見もありました。私ももう一度支援活動のあり方を考えていきたいと思えます。